

# 令和3年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 発表資料

## 活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備“に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備“に取り組む	
昨年度までの“環境整備“を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備“と“支援チーム派遣(事業化支援)”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：公益財団法人八木町農業公社

活動地域：南丹市、京都市、亀岡市、京丹波町

活動におけるテーマ・キャッチコピー  
地域にあるものすべてを生かす

# 活動団体紹介

- 公益財団法人 八木町農業公社は、畜産環境の改善並びに地域特産物の育成など、農業と畜産業が渾然一体となった地域農業の確立をはかり、農業・農村の資源を最大限に活かした「農業振興の町づくり」を推進すると共に、農林業の大切さや環境問題を学び、地域社会の健全な発展をはかることを目的として、平成9年に設立されました。URL <http://himuronosato.jp>



- 南丹市八木農村環境公園「氷室の郷」

南丹市八木バイオエコロジーセンター



- 農園イチゴ収穫 地域特産品販売



バイオガス発電



メタン消化液肥散布

# ありたい地域の未来を実現するために何をするか

## ありたい地域の未来

地域の産業(農林畜産業・食品製造加工業・商工業)や自然資源(森林・農地・河川)に係る人など全てを生かす。

**課題** (地域の課題、ありたい未来を達成するための障害など)

液肥の普及拡大に関して、液肥の貯留量が限定的で知名度や、拠点としての活用、農業者や消費者が活用の仕方を分かっていないことなどが課題。  
南丹市八木バイオエコロジーセンターで有機性廃棄物を処理し、液肥製造しているが、処理量22,000t/年の内液肥利用量5,000t/年に止まり、全量液肥利用することを目指す。

**資源** (活用できる地域資源、必要な資源、地域外の資源など)

- ・ 有機性の廃棄物①家畜排せつ物②食品廃棄(残渣)物③汚泥 (企業誘致で食品関係の工場ができることも影響。地元・他市食品企業からの処理要望がある。)
- ・ 若い農業者 (液肥を活用した農産物を市民に提供している。)

**取組** (ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ)

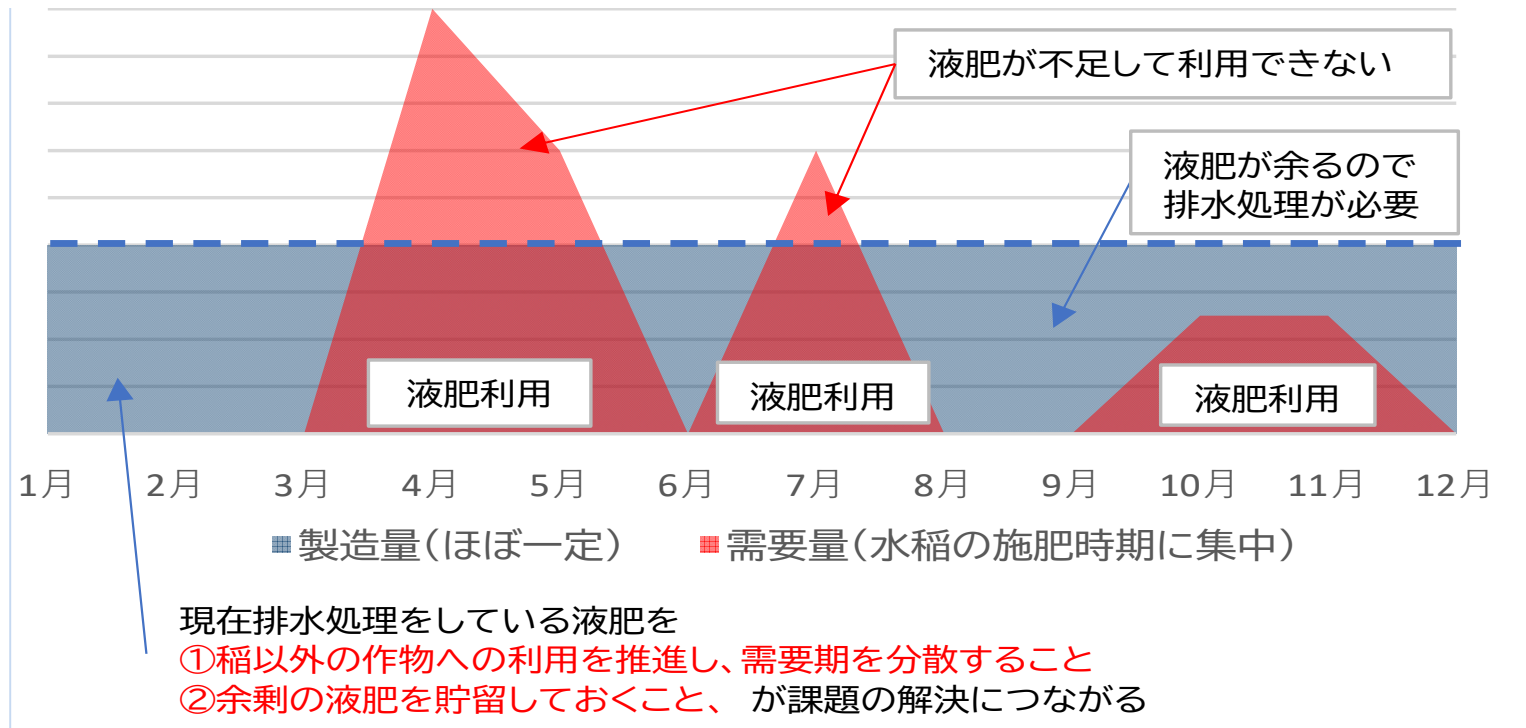
- ①液肥利用拡大：水稻に偏っていることから野菜等の手順書作成・講習会開催
- ②液肥貯留と散布効率向上：需要量対応できる貯留拠点(量)の検討・自動散布機械開発

**成果** (取組によって出したい成果)

- ①全国初の液肥栽培農産物認定制度創設 (液肥栽培農産物のブランド化)
- ②液肥需要時期に液肥不足し、非需要期に液肥散布ができない状況を回避する為、液肥貯留タンクの設置・散布機械の開発を目指す。

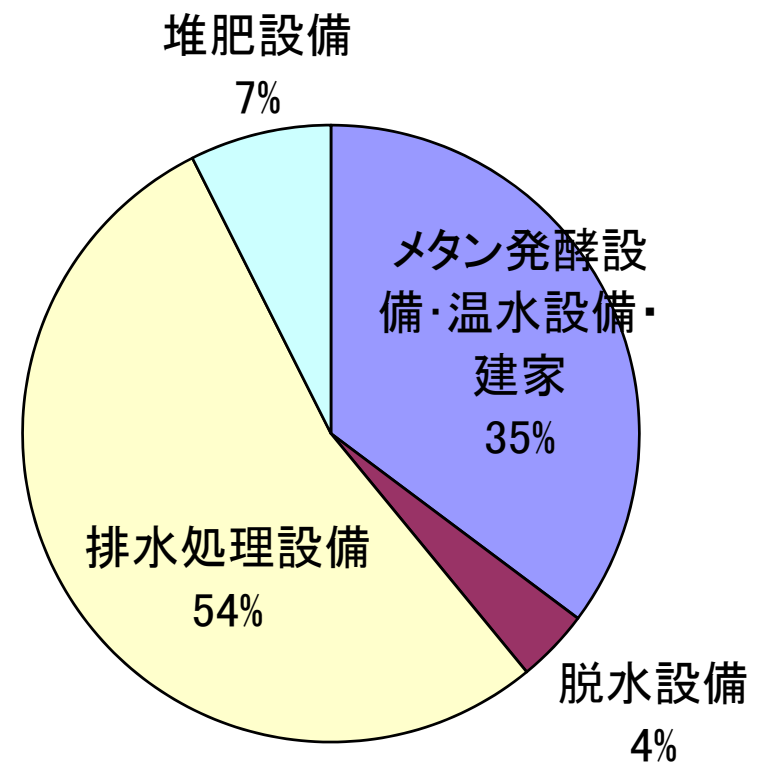
# 液肥利用量と製造量の現状イメージ

- 畜産系廃棄物や有機汚泥、おからなどを処理した後に令和2年度実績で堆肥9,500t、液肥として5,200tを販売しています。
- メタン施設の年間処理量は約2万トンで、同量の液肥が副産物として生産されますが、生産量の25%の利用にとどまっている。
- 液肥の利用が伸びない原因は、水稻の施肥適期でしか液肥利用の需要が大きく見込めないのに対し、液肥の供給は毎日一定量であるという需給のアンバランスにより、必要な時に不足し需要のないときに余剰が発生することにあります。



# バイオマスエネルギー有効利用課題

- 2020年度発電量1,166MWh/年であるが、同施設内利用量918MWh/年になっている。
- 利用量の内訳は右図のとおりです。この中で、脱水及び排水処理で60%占めている





# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制

近畿農政局、京都府、京都市、亀岡市、南丹市、京丹波町、京都大学、龍谷大学、京都農業協同組合、南丹市液肥利用協議会、南丹市液肥栽培農産物認定委員会（現状は準備委員会で、令和3年度中に正式発足予定）、農業者団体等と連携・協働して関連事業を進めていく予定です。

### ■ 連携強化のステークホルダーとの連携

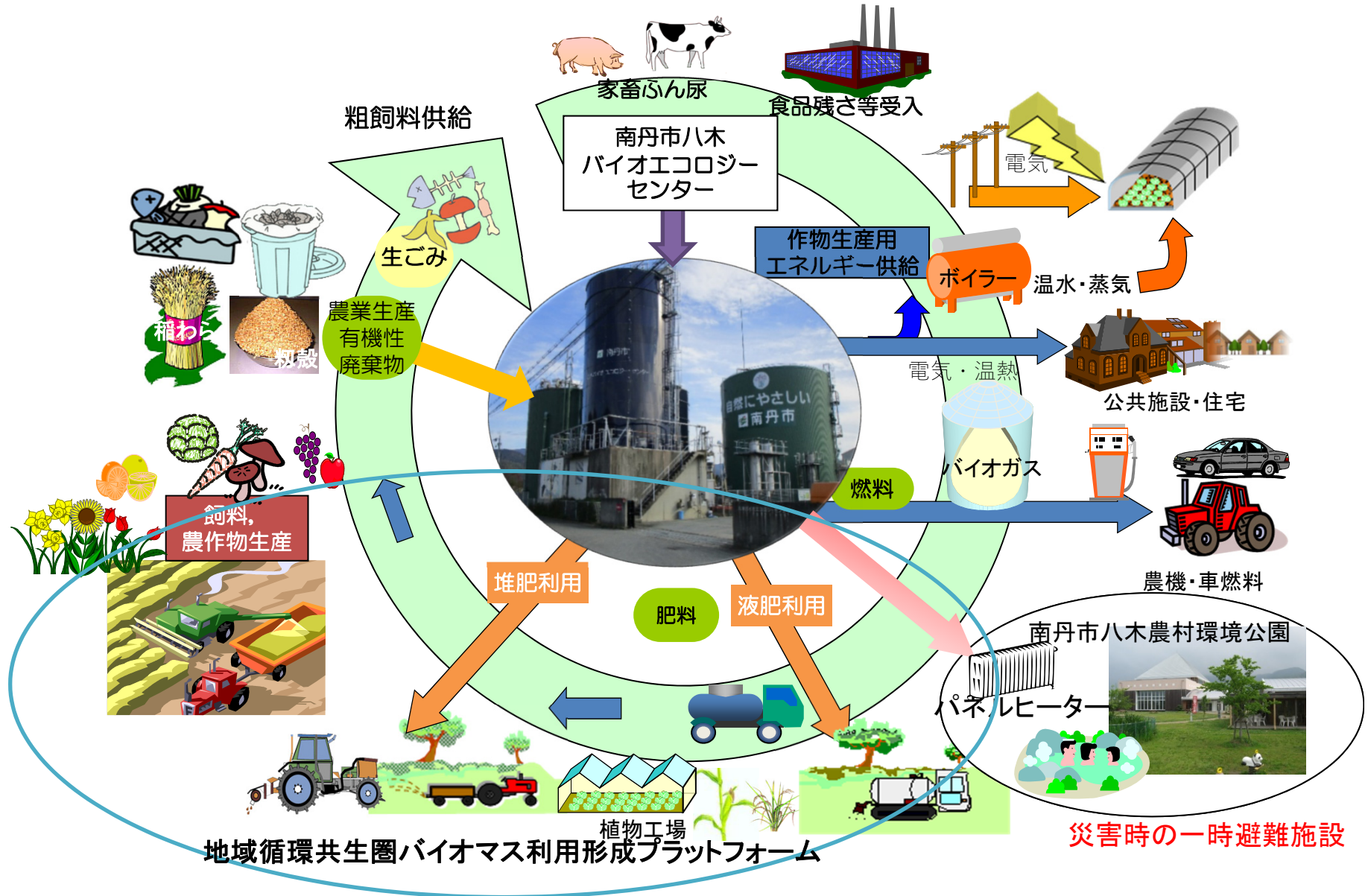
- 京都丹波もん：南丹市内の若手農業者が、京都丹波にある農産物や畜産物等の商品開発・流通を生み、農業を生業としての成功と将来性をもって地域環境を守る
- 南丹市液肥利用協議会：液肥利用農家で組織する団体

## 環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ

- 南丹市役所、京都府農業改良普及センター、京都農協、京都大学と連携・連動しながら進めていきたい。
- 京都丹波地方（南丹市、京丹波町、亀岡市）で活動の若い農業団体を巻き込んだプラットフォームを作っていきたい。
- これまで資源循環が確立していなかった周辺の有機性廃棄物排出工場等に、地域プラットホームへの新たな参画を図り、資源循環による丹波地域循環共生圏をめざす。

- 協力者を募る（プラットホームの新たな参画者）には南丹市及び他市町村（京都市や亀岡市・京丹波町）との連携により実施する。
- 事業実施に当たってファイナンスが重要となるため、地元金融機関の参画を図る。

# 南丹市八木バイオエコロジーセンターの資源循環イメージ



# 年間スケジュール（参考資料）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング ↔協定締結（活動予算執行開始）				→現地意見交換会		◆中間報告会 ◆中間報告書提出期限			◆成果報告会 ◆活動団体成果報告書提出
液肥利用の手引き、栽培暦の作成による栽培農家への普及啓発		対象作物選定		←栽培実証			施肥設計・手引き作成		←利用農家団体・農家との意見交換			
液肥供給体制の整備による利用促進	圃場データ・GISデータ等分析			←								
			サテライトタンク設置シミュレーション・評価									